

# そうじゃ・宮城っ子基金へ 広がる支援の輪

市民会館で4月27日に開かれたコンサート。部活動も新しい体制になったばかりの忙しい時期にもかかわらず、市内の全中学校と高校の吹奏楽部と合唱部が集まった



**東** 日本大震災から2年が経過。総社市では復興を願う多くの人がさまざまな形で支援活動を継続して行っています。

**音** 楽の「ちから」と題し4月27日、市内の中学校・高校の吹奏楽部や合唱部による東日本大震災復興支援コンサートが市民会館で開かれました。中高生約250人が参加。「何か支援がしたい」という思いが集まり、今年

で3回目の開催です。それぞれの部が思いを込めながら曲を披露。音楽という形で被災地の人へエールを送りました。総社東中学校吹奏楽部3年生の田中燦野さんは「震災から年月が経っても支援する気持ちが薄れないようにしたい」と話します。被災地へ生徒たちの1日も早く元の生活に戻れる日が来て欲しいという思いが伝わったのではないのでしょうか。

**ね** がいをテーマに東日本大震災チャリティーコンサートが5月3日、天満屋ハピータウンリブ総社店で開催されました。総社市を中心に音楽活動をしているアマチュアミュージシャンが出演。被災地の人が一瞬も早く幸せを取り戻してほしいという願い。自分たちの支援する思いが被災地へ届いてほしいという願い。そして、支援の輪が広がってほしいという願い。この3つの「ねが

東日本大震災復興支援チャリティーコンサート音楽の「ちから」実行委員会代表の板谷信昭さん（総社東中学校副校長）。「このような活動はすぐに形になるわけではない。でも、続けていくことで、いつか気持ちが届くのでは」と、指導者として生徒に呼びかけます



東日本大震災復興支援チャリティーコンサート実行委員会で運営や準備など裏方として参加する吉田和司さん（総社一丁目）。「現地には行けなくとも、とにかく何かできることをしたい。風化させないためにも支援を継続していければ」と話します

**花** は咲く。東日本大震災の被災地・被災者い」を胸にステージに立ちます。昨年市内の公民館など7か所でコンサートを開き、継続して支援活動を行ってきました。今年度はリブ総社店を皮切りに、2か月に1回程度のペースで開催します。「これからも息の長い支援を続けたい」と、実行委員会代表の宇佐美敬三さんは話します。

の復興を応援するために制作されたチャリティーソングです。どちらのコンサートでもファイナレに参加者と来場者全員で合唱。被災地の復興を願う気持ちを一つにしていきました。市に寄せられた義援金の総額は個人と団体合わせて6184万4375円（5月1日現在）。「そうじゃ・宮城っ子基金」として、両親を亡くした宮城県内の中学生以下の震災孤児78人に対し、1人1年間10万円を

支給しています。これまで、多くの人に寄付をしていただき、支援の輪が広がっています。毎月義援金にご協力いただいた人のなかから、掲載の確認のしませんが、まだまだご協力をお願いしている人が多くいます。すべての人を紹介することはできませんが、趣旨に賛同していただき、本当にありがとうございます。総社市はこれからも支援し続けていきます。



5月3日に天満屋ハピータウンリブ総社店で開かれたコンサート。出演した9組全員で「花は咲く」を合唱。訪れた買い物客は足を止め、心のこもった熱い歌声に魅了されていた

## いつか花は咲く 音楽で伝える